

食物アレルギーの経皮感作について

愛媛生協病院小児科・アレルギー科

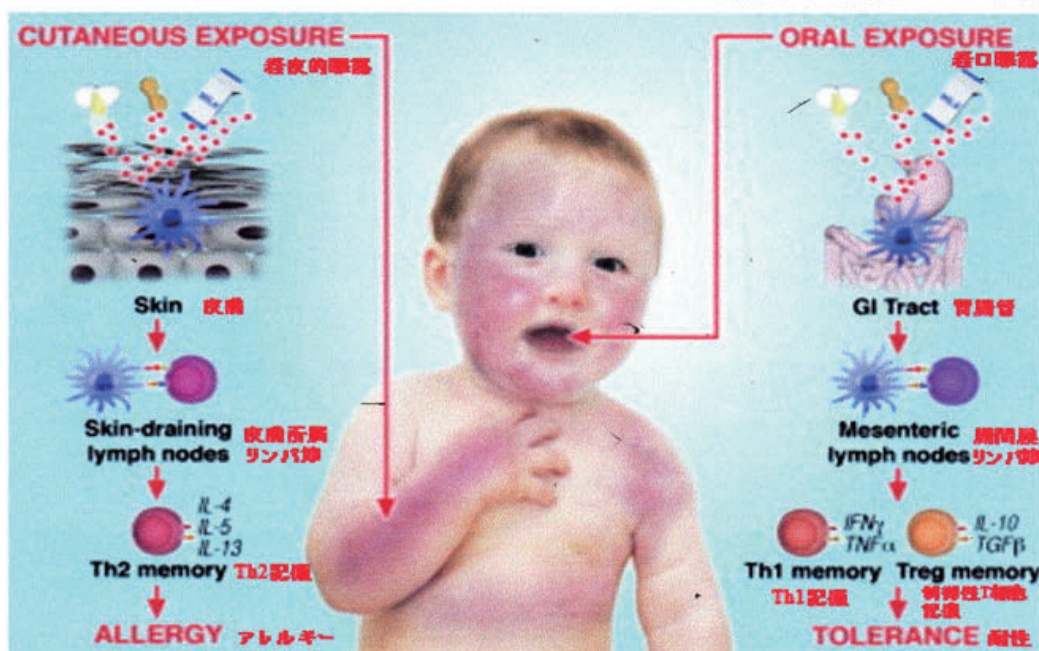
【食物アレルギー感作のこれまでの常識】

食物抗原の感作経路は、これまで主に、患児自身が口から食べた食物のタンパク質が消化管から体内に侵入して感作されると考えられてきました。そのため、抗原となる食物を食べない「除去食療法」が、食物アレルギーの予防としても、治療上も唯一の最善な方法とされてきました。

離乳食を開始する前、まだ生まれてから一度も食べたこともない食物にもアレルギーになることをしばしば経験します。その説明として、経口的感作のもう一つの経路として、「経母乳感作」が推察され、授乳中は、母子ともに食物を除去するように指導されてきました。

【二重アレルギー曝露仮説について】

2008年 Lack は、食物アレルギーの発症に関して、湿疹などにより皮膚のバリア機能が障害された皮膚表面からは、環境中の卵やピーナッツ・牛乳などの抗原が経皮的に侵入（経皮的曝露）して食物アレルギーが発症し、一方、「経口的曝露」では耐性が誘導されるという「二重アレルギー曝露仮説」を提唱しました(図)。



食物アレルギー病因についての二重アレルギー曝露仮説

(Lack G. Epidermiologic risks for food allergy. *J Allergy Clin Immunol* 2008; 121: 1331-1336)

食物アレルギーが、この仮説通りに全て「経皮的曝露」で発症するのかはまだ不明ですが、顔面や体幹・四肢の外側など、肌を露出している部位に湿疹が分布する乳幼児のアトピー性皮膚炎の場合、「経皮的曝露」が発症経路であることは確かだと思われます。

【スキンケアは食物アレルギーの予防と治療の基本】

湿疹などで皮膚のバリア機能が障害された状態では、経皮的に卵や牛乳などの食物抗原やダニ・花粉などが、毛穴から経皮侵入します。

皮膚に食べ物が付いて汚れたら、こまめに洗ったり、拭いたりすることは、食物アレルギーの予防として重要です。また、湿疹があるところは、ステロイド軟膏を含む外用薬で、早期に治療して湿疹の改善をはかり、改善後にワセリンや保湿剤で保護することは、湿疹の再燃を予防し、重症化させないためにも、重要な治療です。

【環境中の抗原を減らしましょう！】

家族が団欒する居間のカーペットには、ダニが4畳半の大きさと約100万匹いると言われています。ダニ以外にも、人のフケや髪の毛、動物の毛、花粉、お菓子のカスなどで、カーペットは汚染されています。素肌を露出してゴロゴロしていると、抗原を皮膚にまぶしているのも同然で、「経皮的曝露」の原因になります。

お菓子は、食べカスができるだけ床に落ちないように注意し、環境中の抗原を減らすように気をつけましょう。

(2011. 6. 16)